

茶産業、生産効率が原因で足踏み

お茶はベトナム人にとって馴染み深い飲料となっている。B&Companyのアンケート調査（2014年）では、約半数が毎日お茶を飲み、また最もよく飲む種類として17%がボトル詰めされた茶系飲料、83%がティーバッグ、茶葉、粉末などの茶と答えた。

環境が栽培に適していることから消費とともに生産活動も活発だ。生産、加工企業登録数は650社、小規模生産を行う農家は全国に多数存在する。統計総局によると、2014年の茶栽培面積は前年比1.8%増の13.2万ha（うち摘採実面積11.5万ha）、茶（生葉）生産量は2010年から毎年2~5%で成長を続けており約96.3万トン（約8トン/ha）であった。ラムドン省、タイグエン省が最も生産量が多く、VITAS（ベトナム茶協会）によると、それぞれ年間22.4万トン（2.4万ha）、19.3万トン（2.1万ha）であった。



生葉の生産量は拡大を続けている一方で、茶葉を加工して製造される荒茶は2010年から年間4.1%で減少し、2014年の生産量は17.8万トンであった。知識不足による過度な栽培サイクルや農薬の過剰使用が主因であり、生葉の品質が低下し結果として荒茶生産量が減少している。また、製造基準厳格化により、古い品種（茶葉）を使用できなくなった影響もある。対策もとられており、タイグエン省では新品種の栽培面積を拡大（2014年には省内栽培面積の56.5%を実現）し、他地域に対しても品質向上を指導している。

ベトナムは世界第5位の輸出国であるが、荒茶生産量が低迷しているため輸出量は2012年から年間4.9%で減少している。2014年の輸出量は13.3万トン、輸出額は2.3億ドルであった。2013年の貿易統

計によると、輸出量はパキスタン（20%）、台湾（13%）、中国（12%）、輸出額はパキスタン（16%）、台湾（16%）、アフガニスタン（10%）の順に大きい。重量当たりの価格が上昇しているため輸出額はほぼ横ばいを維持できているが、生産量の減少は悩ましい問題だ。解決策として、農家と製造加工業者の連携を強化しベトナムの GAP 認証（適正農業規範）に適合した生産量を拡大することが求められている。

茶産業は生産量の70%以上を輸出しており、既に重要な輸出産業の1つとなっている。しかし、さらに拡大を続けるためには栽培面積拡大と並行して、生産効率、品質の向上により注力する必要があるだろう。